

第20期考古学セミナー

—古代から近世の木簡と木製品—

講義1

古代の木製品 —建築部材・祈り・文字—

山形考古学会会長 佐藤 庄一 氏

平成30年9月30日（日）

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

古代の木製品—建築部材・祈り・文字—

佐藤 庄一



西門方向から、東門と南門を望む

酒田市城輪柵跡

第20回考古学セミナー

平成30年9月30日

出羽国の成立と移民

〔訳文〕

「出羽国を建てて、すでに数年を経たにもかかわらず、官人や人民が少なく、狄徒（えみし）もまだ（朝廷の統治に）なっていない状態でありますが、その土地はよく肥え、田野も余裕があります。どうか、**近くの国の民を出羽に移り住まわせて**、凶暴な狄（えみし）を教えさとし、あわせて土地の収益を維持できるようにしたいと要望します。」
（朝廷は）これを許した。それで陸奥国の最上と置賜の二郡と、信濃、上野、越前、越後の四方国の人民を、一國百戸ずつ出羽国に移し、付属させた。

「続日本紀」卷七 靈龜二年九月

715年

建出羽国、已经数年、吏民少稀、狄徒未馴、其地膏腴、田野廣寛、請令隋近国民、遷於出羽国、教諭狂狄、兼保地利、許之、割陸奥国最上置賜二郡、及信濃、上野、越前、越後四国百姓各百戸、隸出羽国焉、

出羽国への移民と出羽国の概要

■ 出羽国への移民状況

- ①和銅7(714)年
尾張・上野・信濃・越後から
各50戸 ⇒ 計200戸
- ②霊龜2(716)年
信濃・上野・越前・越後
・陸奥(最上・置賜郡)から
各100戸 ⇒ 計500戸
- ③養老元(717)年
信濃・上野・越前・越後から
各100戸 ⇒ 計400戸
- ④養老3(719)年
東海道・東山道・北陸道から
⇒ 計200戸

■ 出羽国の概要

- ①国の種別 上国
- ②郡と郷数 11郡・71郷
(和名妙郷数)
- ③推定人口 80,300人
(陸奥国186,000人)
(越後国 97,350人)
- ④調と庸 (調・庸)狭布・米・穀

秋田県弘田柵跡と角材列

- 昭和5年、文部省の上田三平が
外郭の角材列を発掘。翌6年、国
の史跡に指定。(文献に記録なし)
- 弘田柵跡の性格論
①河辺国府説 ②山本郡衙説
③無名不文の遺跡 ④雄勝城説
- 柵木の年輪年代(802~804年)



秋田県大仙市・弘田柵跡の全景



調査で発見された角材列と上田三平



復元された外郭南門と政庁



宮城郷漆紙文書

平安時代の出羽国府・城輪柵跡

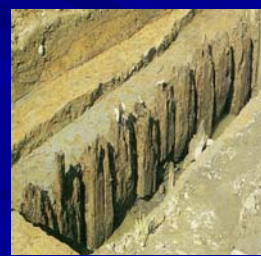


城輪柵模型と内郭南門



政庁の想像図

城輪柵跡全体図



城輪柵跡の外郭角材列

出羽の国分寺？ 「堂の前遺跡」



方形基壇(塔)の筏地業



中心部の遺構配置図



直径54cmの柱根と掘り方(金堂跡?)

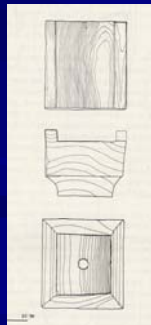


礎石建物跡(講堂跡?)

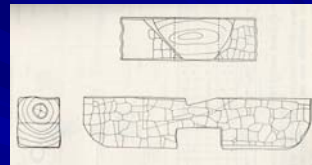
堂の前遺跡の斗と肘木



斗



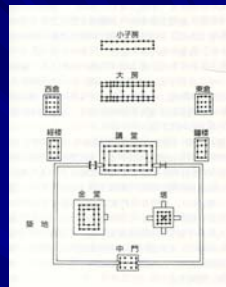
肘木



文化財愛護のシンボルマーク

このマークは昭和41年5月に定められ、これはひろげた両方の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗檜（組みもの・左図参照）のイメージを現わし、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を象徴したものです。

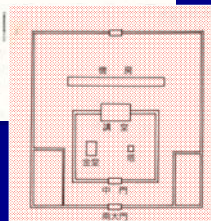
堂の前廃寺の伽藍配置



多賀城廃寺の伽藍配置と模型



堂の前廃寺の伽藍配置と観世音式(高倉洋彰2010)



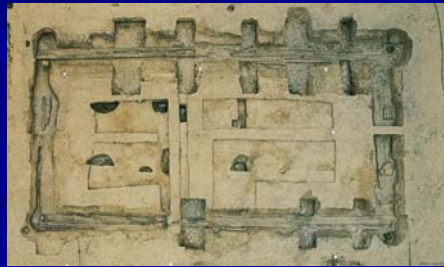
太夫小屋1遺跡は寺院跡、正倉跡？



つくば市平沢官衙遺跡の倉庫群

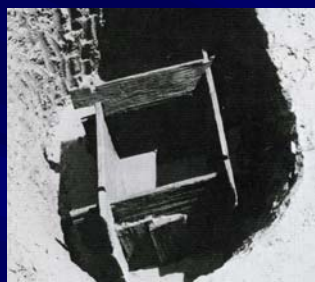


太夫小屋1遺跡の大規模建物跡群

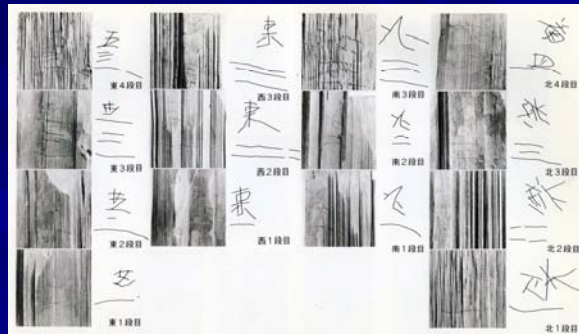


笹地業を伴う大型建物跡

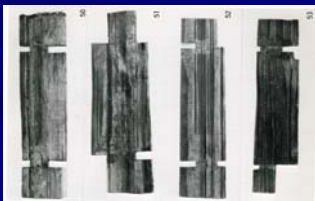
酒田市北田遺跡の井戸番付



SE159井戸跡と井戸枠

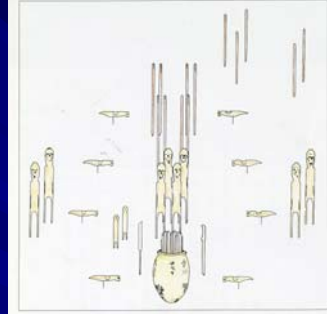


東西南北四面の一～四段の番付



陰陽師の祭祀場「俵田遺跡」(安部実1984)

祭祀遺構と人形(ひとがた)



祭祀遺構復元図



もう1組の祭祀遺構



祭祀遺構全景

俵田遺跡の木製品と人面墨描土器



人形木製品の顔



刀形と馬形木製品



人面墨描土器

「磯鬼坐」



堂の前遺跡の呪符木簡



急々如律令の木簡と出土状況

出羽国講師の安慧という人物

- ・安慧(あんえ) ; 円仁の弟弟子。
- ・承和11 (844)年出羽国講師(拾遺往生伝)。
- ・円仁の没後に比叡山延暦寺4代座主となる。
- ・講師; 諸国の国分寺に配置、僧寺に住む。
- ・任期6年の職掌。

高敞の国府? 「八森遺跡」(佐藤禎宏2002)

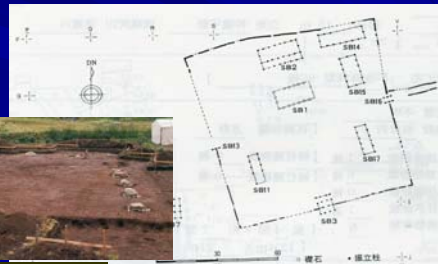
守從五位下坂上大宿部庚申上吉國府在出羽郡赤井口境即去延曆府中陸奥守從五位上小野朝臣守
 守從大將兼從三位坂上大宿部庚申上吉國府在出羽郡赤井口境即去延曆府中陸奥守從五位上小野朝臣守
 海水漲移道所六里所大川南邊法隆一町餘兩邊受害無力履差慶元之期在於且舊國府遺址上
 郡大山部保實土野據其附圖說按舊知者太政大臣中納言左衛門督高野朝臣能直參議左大
 將兼行勳解由長官文章博士藤原朝臣廣相於左佐治右長部大輔兼直常陸守大膳大夫小野朝臣春風
 左京亮藤原朝臣高松等同被國守之利實所官參同真難完更百伊豫守藤原朝臣保則以高野等
 同問之保則言國府所請非知理野保則高野等元任會國史應知土地之形勢故召問之太政官因
 國宰解其詳事保則曰河水邊之講廢得真其去中出外之國本見其使何處者即地在國南境
 山有而南自河而西河水浮舟處有運漕之利產區結津元向路之別說秋田縣跡而去已萬餘
 椽不後又難納秋葉國府上下必有分頭人縱非兼赴誠若沿水面石浮水而遺表徵發之領更據於
 尋常國史之費所加於整無憂無事之時縱能兼濟營全不慮之日何得開其以此語之產理之明耶
 可據詳圖詳審若從高敞之與開月地不勝其難其難其難其難其難其難其難其難其難其難其難其難
 宜依官議是今行之 (新訂增補國史大系日本三代實錄後篇一九七七下頁)



八森遺跡と建物跡



城輪柵跡周辺の地形



正殿礎石建物跡

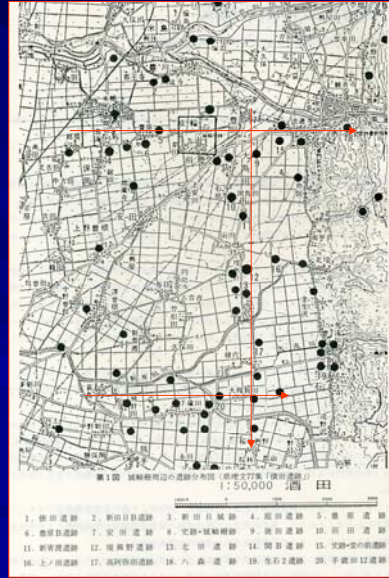
八森遺跡建物配置図

仁和3 (887)年「三大実録」の記事

佐藤庄一の「出羽の都論」(昭和58年)



出羽の都の推定地割り



城輪柵跡周辺の遺跡分布

多賀城域内の方格地割り



多賀城国府城内の方格地割り図
(高倉敏明2008「多賀城跡」より)



多賀城の政庁と南門



南北大路跡 (上) と東西大路跡 (下)

「出羽の都論」の再検討



城輪柵跡周辺の修正地割(720m区画)

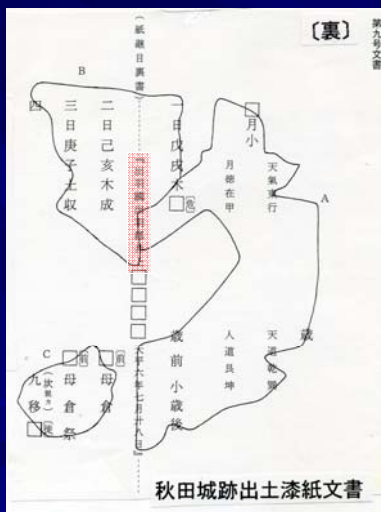


城輪柵跡政庁の地割案



依田遺跡の大路推定道路

田川郡内の役所と文字史料



出羽国出羽郡井上郷

七三四年頃



鶴岡市山田遺跡の驛子・大伴木簡

遊佐荘から藤原摂関家への年貢

金五両



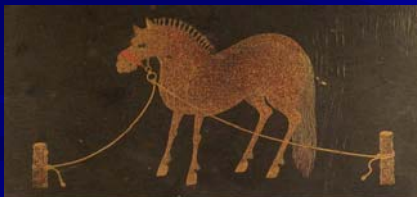
砂金 古代より東北地方の貢納物だった。

鷲の羽三尻



鷲の羽 鷲(わし)の尾羽(おぼね)は、矢羽として重宝された。

馬一疋



馬 奥羽の駿馬(しゃんめ)は最高の馬として、鎌倉武士や京都の貴族たちにもてはやされたという。黒有文「鶴籠(まさえ)給馬より」



本館所蔵の白磁の口縁7.4cmの小皿である。

出羽庄内の古代の郡と郷の推定

出羽、田川、飽海郡郷推定地

○出羽郡

- 大窪郷 (旧藤島町を中心とする地域)
- 河辺〃 (旧田立川町～旧余目町東南部地域)
- 井上〃 (最上川南岸の酒田市域)
- 大田〃 (鶴岡市北西部～旧三川町西部地域)
- 余戸〃 (旧余目町を中心とする地域)

○田川郡

- 田川郷 (鶴岡市田川の市南部地域)
- 甘弥〃 (鶴岡市西南部～旧温海町地域)
- 新家〃 (旧櫛引町～旧朝日町地域)
- 那珂〃 (旧羽黒町～旧藤島町南部地域)
- 大泉〃 (鶴岡市街地～旧櫛引町北部地域)

○飽海郡

- 大原郷 (酒田市東北部地域)
- 飽海〃 (旧平田町郡山を中心とする地域)
- 屋代〃 (遊佐町の北平野部地域)
- 秋田〃 (酒田市街を中心とする地域)
- 井手〃 (旧松山町を中心とする地域)
- 遊佐〃 (遊佐町の南平野部地域)



加藤稔1982「古代出羽国郷名考証」より